



# エコアクション21

2009年度

## 環境活動レポート

東洋ガラス機械株式会社

2010年4月23日

代表取締役社長 鈴木 信悦

## 環境方針

東洋製罐グループの一員として、地球環境の保全と改善を重要課題と強く認識し、  
企業活動において環境に対し、自主的に、積極的に推進していきます。

### <環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 環境目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。
3. 省エネルギー、省資源及び廃棄物の削減を図るとともに、環境改善に努めます。
4. 全従業員並びに当社で働く人々に、この環境方針を周知し、環境改善に努めます。

東洋ガラス機械株式会社

2007年7月1日

代表取締役社長

鈴木 信悦

## 1. 事業活動の概要

### 1) 事業所名及び代表者氏名

東洋ガラス機械株式会社 本社・横浜工場、東京工場  
代表取締役社長 鈴木 信悦

### 2) 所在地

本社・横浜工場 神奈川県横浜市川井本町76  
東京工場 東京都大田区東六郷1-27-7

### 3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役管理本部長 藤川 和正  
担当者 管理本部 長田 茂  
連絡先 電話 045-953-8831 FAX 045-953-5137  
ホームページアドレス <http://www.tgmm.co.jp/>

### 4) 事業活動の内容についての簡単な記述

- ・ガラス容器(びん、食器)、プラスチック容器などの意匠設計、金型設計、金型製造販売。
- ・びん、食器、プラスチック容器製造用諸機械の設計、製造販売。
- ・ガラス容器(びん、食器)製造に関する技術指導。
- ・食品機械及び一般産業機械の開発設計、製造販売および輸入販売。

### 5) 事業の規模

活動規模	単位	2007年度	2008年度	2009年度
主要製品生産量	t	214	275	247
売上高	百万円	4,277	3,410	3,418
従業員	人	183	173	152
床面積	m <sup>2</sup>	9,285	9,285	9,285

## 2. 環境目標とその実績

### 1)環境目標

環境への負荷の現状と取組状況のチェック結果を検討し、二酸化炭素排出量の90%を占める電力使用量、廃棄物処分量、コピー用紙購入量、総排水量の削減に取り組む。

環境負荷と環境への取組結果を踏まえ、定めた環境負荷低減のための目標値は次の通りである。

#### 環境負荷低減目標

基準年：コピー用紙購入量は2006年度、廃棄物処分量は2008年度、その他は2005年度とする。

アウトプット項目	単位	基準値	2009年度	2010年度	2011年度
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,631,968	94.3%	93.8%	93.3%
電力使用量	KWh	3,895,000	98.1%	97.6%	97.1%
コピー用紙購入量	kg	4,460	88.6%	88.1%	87.6%
廃棄物処分量	kg	9,673	99.5%	99.0%	98.5%
総排水量	m <sup>3</sup>	6,343	94.4%	93.9%	93.4%

## 2)環境への負荷実績

### 環境への負荷チェック

当社の業務内容は、機械製造及び金型製造で、環境負荷として、主に考えられるのは、二酸化炭素排出量、総廃棄物排出量、総排水量が該当する。

当社の環境負荷の概要は、次の通りである。

- ・当社における二酸化炭素排出量の90%が電力使用量、10%が化石燃料である。
- ・廃棄物は、今まで廃棄量をバケツ方式による重量換算から2008年より排出時に実貫作業を行い廃棄物に対する意識を高めた排出方法に変更した。
- ・当社における総排水量は、生産上での使用が無いため水資源投入量と同等である。

これらのことより環境負荷として数値として捉えたものは下表のとおりである。

### コア指標

アウトプット項目	単位	2006年度	2007年度	2008年度
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,516,620	1,545,056	1,547,141
電力使用量	KWh	3,635,686	3,758,321	3,785,393
廃棄物処分量	kg			9,673
総排水量	m <sup>3</sup>	6,041	6,665	6,019

### 3) 環境への取組状況

#### ① 環境保全の取組チェック結果

環境省発行の「環境活動評価プログラム」の環境保全の取組の自己チェックに準じて環境への取組について自己チェックした結果の概要は次の通りである。

- ・環境保全の全体的な取り組みが、活動前より活動後は10%向上した。
- ・事業活動へのインプットに関する項目では、活動前に比べ「省エネルギー・新エネルギー使用の拡大」「省資源・グリーン購入」共に7%向上した。
- ・事業活動からのアウトプットに関する項目では、全体的な活動度合いが、活動前54%から活動後69%に向上した。
- ・環境経営システムに関わる項目では、全体的な活動度合いが、活動前77%から活動後83%に向上した。特に、「環境教育、環境保全活動の推奨等」「情報提供、社会貢献、地域の環境保全」の項目で約20%向上した。

表の見方：

自社に関する環境保全に関する個々の施策毎に、おおむね実施している場合は2点、一部実施している場合は1点、未実施の場合は0点として、各施策毎に集計し、環境保全に関する施策の実施度合いを示した。

また、各取組チェック項目の効果に応じ、3点～1点の重み付けを行った。

自社に関する施策を全て、おおむね実施している場合は、施策実施度合い100%となる。

施 策	チェック結果の点数		満点の場合の点数		施策実施度合(%)	
	活動前 2009年 5月	活動後 2010年 3月	活動前 2009年 5月	活動後 2010年 3月	活動前 2009年 5月	活動後 2009年 3月
<b>1. 事業活動へのインプットに関する項目</b>						
1)省エネルギー、新エネルギー 使用の拡大	12	14	28	28	43	50
2)省資源、グリーン購入	15	19	62	62	24	31
3)節水、水の効率利用	14	14	20	20	70	70
<b>小計</b>	<b>41</b>	<b>47</b>	<b>110</b>	<b>110</b>	<b>37</b>	<b>43</b>
<b>2. 事業活動からのアウトプットに関する項目</b>						
1)二酸化炭素の排出抑制、大気汚染の防止	23	27	36	36	64	75
2)化学物質対策	19	27	50	50	38	54
3)製品の開発・設計等における環境配慮	11	13	46	46	24	28
4)廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理	101	125	160	160	63	78
5)排水処理	29	36	48	48	60	75
6)輸送に伴う環境負荷の低減	26	36	44	44	59	82
<b>小計</b>	<b>209</b>	<b>264</b>	<b>384</b>	<b>384</b>	<b>54</b>	<b>69</b>
<b>3. 環境経営システムに関わる項目</b>						
1)環境保全のための仕組み・体制の整備	141	146	172	172	82	85
2)環境教育、環境保全活動の推奨等	19	26	34	34	56	76
3)情報提供、社会貢献、地域の環境保全	10	13	16	16	63	81
<b>小計</b>	<b>170</b>	<b>185</b>	<b>222</b>	<b>222</b>	<b>77</b>	<b>83</b>
合計点数&度合(%)	420	496	716	716	59	69



### 3. 主要な環境活動計画の内容

#### 3.1 当社の主要な環境保全に向けた具体的な取組内容

##### 1) 二酸化炭素排出量削減

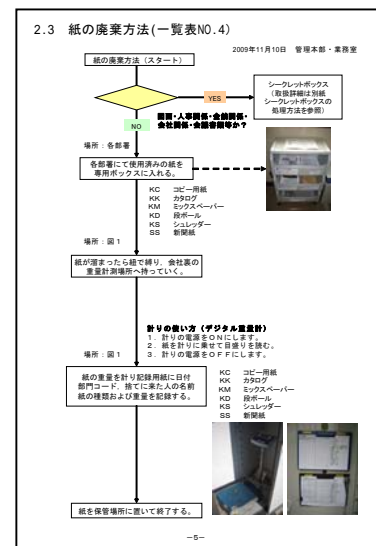
- ①クールビズ(28℃)ウォームビズ(20℃)の実施
- ②ウォームビズによる太陽光(熱)の取り入れ
- ③社内共有部分の電灯消灯及び削減
- ④空調電力のデマンドコントロールシステム管理
- ⑤空調機を省エネタイプに入れ替え
- ⑥営業の社有車使用を削減する(公共機関利用)

##### 2) コピー用紙購入量削減

- ①裏紙使用の採用
- ②紙類の廃棄時の実質作業による分別と有価物化の推進
- ③電子媒体利用によるペーパーレス化
- ④両面コピーの徹底
- ⑤会議資料用コピー数量削減

##### 3) 廃棄物処分量削減

- ①紙類の分別回収による資源化
- ②廃棄物処理方法のマニュアルを作成し周知した
- ③食堂ケータリング方式採用による厨房廃棄物削減
- ④金属類の分別回収による資源化
- ⑤各自のごみ箱を撤去し、部門で1個の分別細分化したごみ箱による省資源化
- ⑥検査機の製作材料を削減する。
- ⑦ウェスごみの削減(リサイクルウェスの活用)



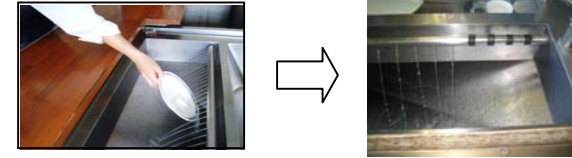
3-② 廃棄物処理方法のマニュアル





#### 4) 総排水量の削減

- ① 節水コマの設置
- ② 食堂食器洗浄自動放水&マスクングによる排水量削減
- ③ トイレタンクにペットボトル投入し排水量を削減する。
- ④ 24H風呂の水量管理体制見直し
- ⑤ 食堂ケトル方式採用による精米機・炊飯器の廃止及び食器洗浄量削減
- ⑥ 手洗場の水量(使用吐出量)削減



4-② 食堂放水場の間欠放水とマスクング

### 3. 2 本来業務における取り組み

#### 1) 管理本部

- ① エコカーの導入
- ② 省エネ機器の導入
- ③ クールビズ・ウォームビズ
- ④ 電子掲示板の導入

#### 2) プラスチック金型事業部

- ① エコドライブへの取り組み
- ② 加工の効率化
- ③ 作業の効率化
- ④ 加工不良の削減
- ⑤ 内製化の推進と多能化

#### 3) ガラス金型事業部

- ① クレームと工程内不良の削減
- ② 段取り時間の削減
- ③ 消耗工具の使用量削減
- ④ 運送費用の削減
- ⑤ 金型梱包材料の削減

#### 4) 機械事業部

- ① 環境を意識したカタログの作成
- ② 機械の過剰部品の削減
- ③ 設計時に環境負荷を削減
- ④ 常備在庫品の削減

## 4. 環境活動の取組結果の評価

運用期間(2009年度年間)の環境保全活動が終了し、社長と環境管理担当部門が環境への取組結果の評価を行った。

評価結果は次の通りである。

NO	推進項目	単位	目標	実績	評価
1	二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,538,946	1,509,212	○
2	電力使用量削減	KWh	3,823,285	3,752,757	○
3	コピー用紙購入量削減	kg	3,952	3,455	○
4	廃棄物処分量削減	kg	9,618	9,752	×
5	総排水量削減	m <sup>3</sup>	5,988	5,170	○

- ・全社の2009年度年間目標は、推進項目5項目のうち、達成項目4項目と達成率80%である。
- ・工場別目標では、東京工場の廃棄物処分量削減の1項目だけが目標未達成であった。
- ・取引先への訪問を、車から電車に変更してCO2削減を進めた。
- ・事務所内のウォームビズ(28℃)、クールビズ(20℃)を実施し電力使用量の削減を進めた。
- ・加工現場における作業温度の見直しを進めた。
- ・両面コピーと使用後の裏面コピーの推進及び電子媒体利用によるペーパーレス化により、コピー用紙購入量の削減が出来た。
- ・分別作業の徹底、個人ゴミ箱の廃止、食堂ゴミの業者回収などにより廃棄物削減を進めたが、海外関係会社との受注が決定し輸出入用の梱包材(木材)増加により目標をオーバーした。
- ・月毎の廃棄物(有価物と廃棄物)の実績(重量と費用)を各課長以上に報告して廃棄物削減の協力を求めた。
- ・手洗場、食堂食器自動洗い場、トイレの水圧、水量を調節して使用量を削減した。

## 5. 環境関連法規への違反, 訴訟等の有無

当社に關係する環境関連法規は、フロン回収破壊法、下水道法、騒音規制法、振動規制法、廃棄物処理法、PCB適正処理法、家電リサイクル法、自動車リサイクル法、資源有効利用促進法、消防法、労働安全衛生法である。

関連法規の順守状況結果及び訴訟の有無は次の通りである。

内容	結果
法律違反の有無	無
訴訟の有無	無

## 6. 地域社会貢献活動

### 1) 会社外周部の清掃

会社の周りの公道を定期的に清掃し、ゴミの無い街づくりの一環として地域社会への貢献活動に参加しています。

### 2) ペットボトルのキャップ分別回収

社内で飲用したペットボトルのキャップを分別回収し、特定非営利活動法人(NPO法人)に提供することにしました。

集めたキャップは、樹脂メーカーに引取られ、その対価が「認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」を通じて世界の子どもたちにワクチンが届けられます。

1年間に24,400個を回収して提供しました。

今後もペットボトルキャップを回収して、ボランティア活動に協力します。